

クリストファー・ホグウッド(指揮)

ヘンデル・フェスティバル・ジャパンによるヘンデル没後250年記念年第4回公演は古楽演奏の第一人者ホグウッドを招聘。〈陽気の人、ふさぎの人〉と〈聖セシリアの祝日〉のためのオード」を連結するといふ1743年の演奏会の再現に加えて、「オード」のアリアの異稿現代初演も含むという意義深い試み。前者は陽気やふさぎという寓意的人物のテキストを数人のソリストや合唱が交互に歌う。佐竹由美の〈何より

も天使はくや辻裕久の〈鐘を陽気に〉、波多野睦美の〈去れ、むなしきまやかしの喜びよ〉の官能の色彩、ダイナミックに歌い上げた牧野正人の〈賑やかな街〉が秀逸。ホグウッドの指揮は洗練と気品に溢れ、テクスチャーは透明で音楽的な意図が明快。キャンソズ・コンサート管が見事にホグウッドのサウンドに。「オード」は後半「行進曲」から終曲に向けた劇的な盛り上がりが見事で、力強い合唱共々ヘンデルを聴く悦びを堪能した。(2月13日・浜離宮朝日ホール)

〈那須田務〉